

職場移転と業務遂行の改善に向けた取り組み

理学部中央元素分析所 平野雄一

1. はじめに

当所の業務である「元素分析」とは、物質中の水素・炭素・窒素の含有率を測定する手法である。含有率の結果を基に、古くから純粋な化合物の合成証明や推定で用いられ、加えて近年では品質管理分野や環境分野での評価に用いられる等、汎用性が高い分析手法として扱われている。

2. 業務の背景

当所の特長として、一般的に必要な試料量に比べ極少量での分析を可能としており、本学以外の機関からも多くの依頼分析を受け付けている。運営において、(1) 分析の質の維持・向上、(2) 依頼案件の速やかな処理、(3) 既存依頼者へのフォロー・新規依頼者の獲得を目的とした広報活動は重要である。以下、上述の(1)-(3)の本年度の取り組みの一部を、当所の伊都地区への職場移転（昨年9月）とも絡め報告する。

3. 業務への取り組み

(1) 分析の質の維持・向上

課題は主として三点あり、(A) 試料の正確な質量測定、(B) 元素分析装置の安定した運用、(C) 分析装置から得られる生データの適正な処理（解析）が挙げられる。(A)については、天秤周辺の環境を整える事が大切である。移転前後で部屋のレイアウトは変わったが、振動対策(天秤台の調整)・静電気対策(アース設置)・風対策(風除け設置)など環境調整を行う事で、移転前と比べ遜色が無い水準に落ち着いた。(B)については、消耗部品の交換等、定期的に装置の保守・点検を行う事で分析の質の維持に努めている。(C)については、既知試料を用いた処理過程の確認・改良作業が大切である。今年度、当所所有のMT-6型分析装置において、処理過程の改良作業を行い、分析の質が向上した。

(2) 依頼案件の速やかな処理

分析以外の業務を速やか且つ的確に処理する事も重要である。一例として、申込票のデータ入力システムの一部変更した結果、事務業務の効率があがり、分析業務に集中できる環境を構築した。

(3) 既存依頼者へのフォロー・新規依頼者の獲得を目的とした広報活動

ホームページにおいて、移転に関連した告知を行った。閲覧による問い合わせが増えている事から、定期的に更新している^[1]。英語版の作成も現在進行している。

4. まとめ

当所の運営向上を目的に業務遂行の改善に取り組み、一定の効果をあげている。現在進行中の案件を含め、引き続き、来年度以降の業務の質の改良につなげていきたい。

<参考>

[1] <http://www.scc.kyushu-u.ac.jp/EA/index.html>